# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部　４年次生　T.Y

## １．はじめに

2026 年 3 月 4 日から 3 月 28 日までタイのシーナカリンウィロート大学（SWU）に交換留学生として国際交流基金の助成を受けて留学しましたので報告します。

## ２．交換留学の目標

私が渡航前に掲げていた留学の目標は２つありました。

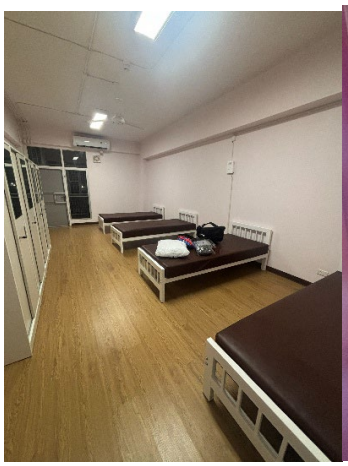
１つは英語力を向上させ、タイの医療分野について学ぶことです。SWU との学生とは英語でコミュニケーションを取って生活していました。今まで自分が学んできた英語は書く、読む勉強ばかりでした。実際に日常生活で英語を話す、聞くという環境で過ごした経験は英語でのコミュニケーション力向上につながりました。そして、大学病院や地域の病院に訪問することができ、タイの医療現場を実際に見ることができました。

もう１つは異国の地で生活できる力をつけることです。自国とは違う文化、言葉が通じる環境や不自由のないライフラインが整備されている環境ではない海外での生活を送ったことは、今後の人生に大きな影響を与える経験になりました。

## ３．大学生活について

私が通っていた SWU の薬学部はバンコク郊外のナコンナヨック県にあるオンカラックキャンパスにあります。SWU では大学内の寮で生活していました。寮の部屋は 4 人部屋になっており私はそこに 1 人で住んでいました。新しい寮だったため他の寮よりも綺麗で部屋にはエアコンがついており、お風呂はシャワーのみでしたが温水器がついていたので、比較的快適に過ごすことができました。

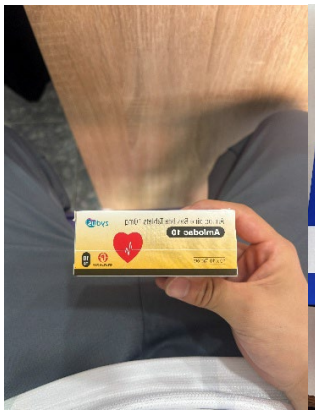
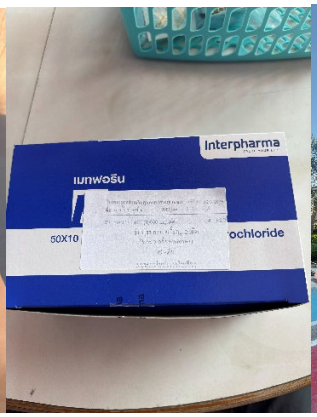
食事はタイでは外食文化のため、毎日外食していました。学内にはいろいろな店が集まっているカフェテラスや、夜に開かれているナイトマーケットで購入したり、学内にセブンイレブンがあるのでご飯には困りませんでした。また、SWU の学生の友達に学外のおすすめのお店に車で連れて行ってもらったりしました。



３．学習

病院実習

　留学期間中に 6 回、地域の健康増進病院へ 5 回生の病院実習に参加しました。生活習慣病の患者様が対象でした。1 度に 90 日分の処方が出ることがあり、日本での処方との違いを感じました。また、タイは 95%が仏教徒ですが、残りの 4～5 %はイスラム教徒です。患者様の中にはイスラム教徒の方がおり、断食の期間と被っていたため、薬を飲むタイミングを調整するために医師に処方の変更の提案をしている姿が印象に残りました。

研究室実験

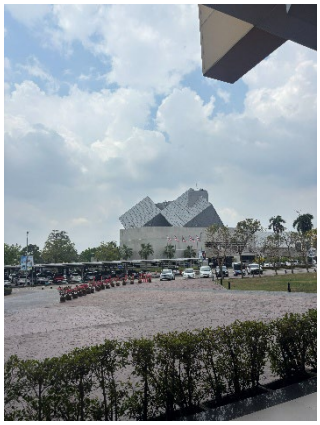
留学期間中の１つの長期間のプログラムとして、ティーツリーオイルとアップルサイダーの濃度を少しずつ変えた６種類のエマルジェルを作製し、エマルジェルの抗菌活性を評価する実験を行いました。阻止円の大きさを測定することで、その効果を比較しました。

製剤実験

３年生の製剤の実験に参加しました。6 班に分かれて実験を行っており、私たちは各班にそれぞれ１人ずつ分かれて実験を行いました。

班の人たちが丁寧に実験の内容を教えてくれ、実際に測定や機械に触れることができました。製剤の実験は本学で私が 3 回生の時にしましたが、海外の大学で実験に参加し、先生がタイ語で説明する内容を聞き、タイの学生に英語で説明してもらい、こちらも英語で返答するといった経験は凄く大きな学びになりました。

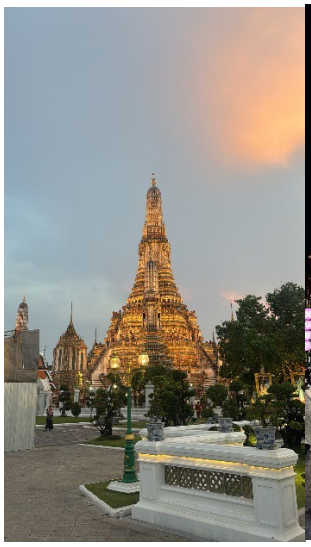
課外活動

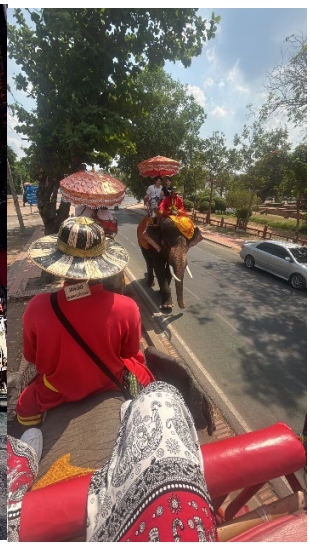


課外活動としてタイ国立科学館に行きました。Zone 1 から Zone 6 までの展示施設があります。特に Zone 6 はタイの伝統的な技術について展示しており、タイシルクの工程作業やタイの昔ながらの漁業の展示で、タイの伝統的な文化を学ぶ良い機会になりました。展示物は基本タイ語で書かれていましたが、引率の先生が説明してくれたおかげで理解して観ることができました。

４．観光

大学院生の方にたくさんの観光地に連れて行ってもらいました。私は世界遺産のアユタヤに行き、象に乗ることがタイ留学滞在中にやりたいことの１つでした。大学院生に伝えると観光のプログラムに入れてもらうことができ、念願の象に乗ることができました。
他にもバンコク市内を案内してもらい、ワットアルンやチャイナタウンに連れて行ってもらいました。また SWU でできた友達に週末ビーチリゾートに連れて行ってもらったり、アウトドアスポーツに参加したりと、自分１人では経験できないような時間を過ごせました。





５．留学を経験して学んだこと

SWU での留学を通して、グローバルな視野を広げることができました。私は今まで旅行での海外経験しかありませんでした。今回の留学では実際に現地の文化に合わせて生活をしました。日本で生活しているだけでは経験できないことを通して多くのことを学び、コミュニケーションを取るうえで英語の大切さも実感しました。渡航前は翻訳機があり、英語を学ばなくてもこれからの時代は海外で生活できると思っていました。実際に生活してみて感じたことは、文字をスマートフォンに打って翻訳し相手に伝えるより、相手の顔を見て自分の言葉で話すことで距離が近くなりました。そして、覚えた現地の言葉で話すととても喜んでもらえました。SWU の学生も知っている日本語を話してくれたり、覚えてくれたり、日本の曲を歌ってくれました。翻訳機が普及した時代だからこそ、英語を学ぶことや現地の言葉を知って使うことが大切だと思いました。今後は英語の勉強はもちろん、海外に行くときは現地の挨拶を覚えて行きたいです。

５．終わりに

今回、国際交流基金助成事業の助成を得て、交換留学に参加させていただきありがとうございました。一緒に留学に行った２人、ＳＷＵで出来たたくさんの友達、大学院生の方、そしてサポートしてくださった本学の先生方、学生課の方、ＳＷＵの先生方、生徒たちのおかげで充実した 24 日間を過ごすことができました。心より感謝申し上げます。